



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—週前半に大幅下落も雇用統計を受けて買い戻される展開—

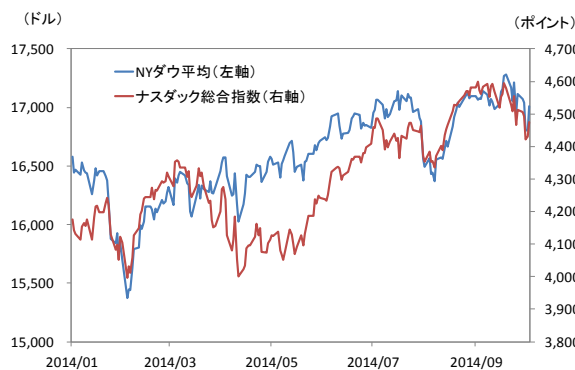
	前週終値	9月29日	9月30日	10月1日	10月2日	10月3日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	17,113.15	17,071.22	17,042.90	16,804.71	16,801.05	17,009.69	-103.46	-0.60%
騰落幅		-41.93	-28.32	-238.19	-3.66	+208.64		
S&P500	1,982.85	1,977.80	1,972.29	1,946.16	1,946.17	1,967.90	-14.95	-0.75%
騰落幅		-5.05	-5.51	-26.13	+0.01	+21.73		
ナスダック総合指数	4,512.19	4,505.85	4,493.39	4,422.09	4,430.19	4,475.62	-36.57	-0.81%
騰落幅		-6.34	-12.46	-71.30	+8.10	+45.43		

＜先週の概況＞

先週の米国株式市場は ISM 製造業景況指数や新車販売台数など、週の半ばにかけて発表された重要な経済指標が市場予想を下回って前月から悪化したことを受け、下落しました。

一時は 1 万 7000 ドルの節目を割り込んだダウ平均ですが、金曜日に発表された雇用統計で非農業部門雇用者数や失業率などが市場予想を上回る改善を見せたことで買い戻され、1 万 7000 ドルを回復して週を終えました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



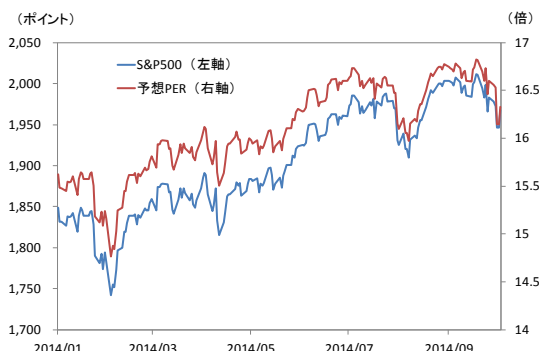
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	14.9	2.9	2.3%
S&P500	16.3	2.7	2.0%
ナスダック総合指数	21.2	3.4	1.1%

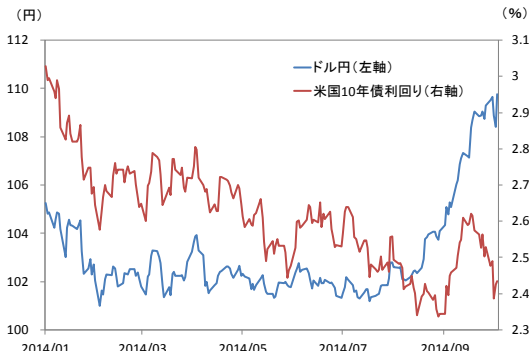
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2014年10月3日時点)

S&P500と予想PERの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

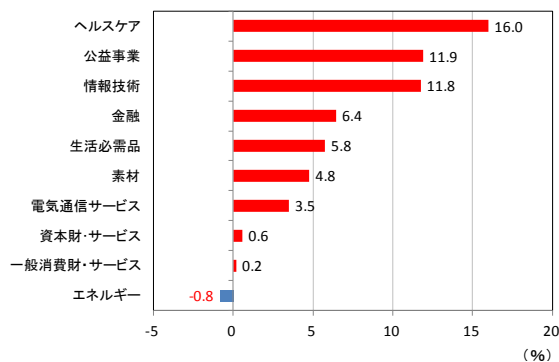
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

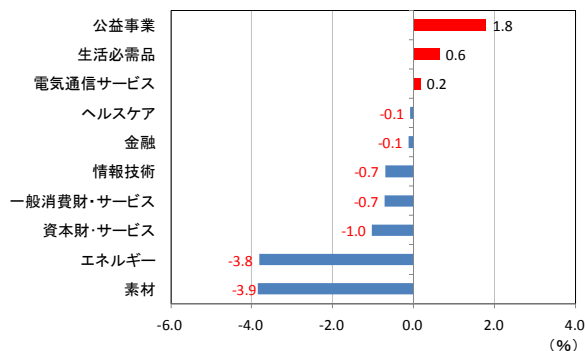
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング(9/29-10/3)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
KO	ザ コカ・コーラカンパニー	1.9
GS	ゴールドマン・サックス・グループ	1.6
CSCO	シスコシステムズ	1.2
WMT	ウォルマート・ストアーズ	1.1
NKE	ナイキ	0.9
MRK	メルク	0.9
HD	ホーム・デポ	0.8
T	AT&T	0.2
MCD	マクドナルド	0.2
TRV	トラベラーズ・カンパニー	0.1

(出所) マネックス証券作成

値下がり率ランキング(9/29-10/3)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
CVX	シェブロン	-3.1
CAT	キャタピラー	-3.0
DD	イー・アイ・デュポン・ドゥ・ヌーヴール	-2.6
JNJ	ジョンソン・エンド・ジョンソン	-1.8
BA	ボーイング	-1.8
PFE	ファイザー	-1.7
XOM	エクソンモービル	-1.6
MMM	3M	-1.6
AXP	アメリカン・エクスプレス	-1.4
PG	プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー	-0.9

(出所) マネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均採用の30銘柄中、上昇は11銘柄で残る19銘柄は下落しました。コカ・コーラ(KO)はストック・オプションを使った役員報酬制度を見直すことと発表したことで今後の株主価値の希薄が抑えられるとしてダウ平均採用銘柄中の上昇率が首位となりました。

<下落>

原油価格の下落基調が続いていることから、シェブロン(CVX)やエクソンモービル(XOM)が下落しました。キャタピラー(CAT)は金曜日にダウ平均採用銘柄の中で唯一下落するなど、冴えない値動きとなりました。

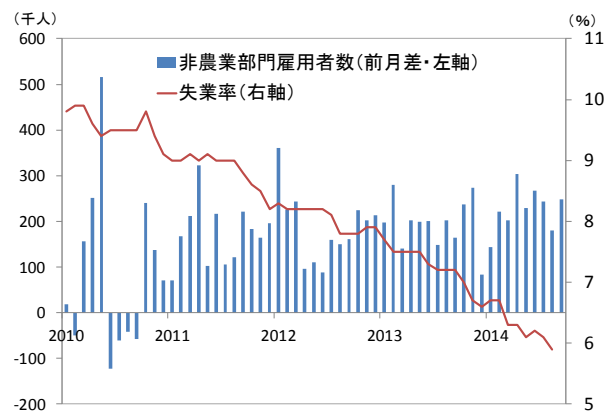
先週発表された主な経済指標

非農業部門雇用者数 9月 +24.8万人 市場予想 +21.5万人 前月 +18.0万人(上方修正)
 失業率 9月 5.9% 市場予想 6.1% 前月 6.1%

3日に発表された9月分の米国雇用統計で、非農業部門雇用者数は前月差24万8000人増と市場予想を上回って改善しました。8月分は14.2万人→18.0万人へ、7月分は21.2万人→24.3万人へ計6.9万人の上方修正が行われました。

また、失業率は5.9%と前月から0.2%改善し、2008年7月以来約6年振りに5%台を記録しました。生産年齢人口に占める労働人口の割合を意味する「労働参加率」が62.7%と悪化傾向に歯止めがかかっていない状況が続いていることから、手放して喜べる状況にはないものの、労働市場の改善は着実に継続していることが明らかとなりました。

非農業部門雇用者数と失業率



(出所)マネックス証券作成

今後発表される主な経済指標

10月8日 9月開催 FOMC 議事要旨



ジャネット・イエレン
FRB 議長

8日には9月16日と17日に開催されたFOMC(連邦公開市場委員会)の議事要旨が発表されます。FOMC終了直後の発表では市場の予想通りQE3(量的金融緩和第3弾)による債券購入が年内で終了する見込みとなったほか、イエレンFRB議長は今後の金融政策に決まった道筋はなく経済状態次第であるという主張を強調しました。

一方で3ヶ月に1度発表されるFOMCのボードメンバーの今後の金利状況の予測レンジが前回より上昇していたことで、利上げが早まるとの思惑が浮上し、ドルが買われるきっかけとなりました。議事要旨では利上げについての議論がどの程度深まっているかに注目が集まります。

マーケットビュー—米国企業の7-9月期の決算発表が本格化—

先週のマーケットビューでは、堅調な経済指標の発表で株価が一段上昇する可能性について記しましたが、ISM 製造業景況指数や新車販売台数などが市場予想を下回る内容だったことから週の半ばまで株価は調整し、週末の雇用統計の好内容で買い戻されるといふ展開となりました。雇用統計の非農業部門雇用者数は、8月分が思わぬ低水準となったものの、他の労働関連指標との整合性の観点から上方修正される可能性について記していましたが、やはり大きく上方修正されました。

10月8日に行われるアルコア（AA）の決算発表を皮切りに、いよいよ7-9月期の決算発表が本格化します。7-9月期はISM 製造業指数、非製造業指数ともに非常に好調で個人消費関連指標も堅調に推移したことから、企業決算も好内容が期待されています。ロイター社の10月3日時点でのまとめによれば、S&P500 採用企業の7-9月期の前年同期比増益率は6.4%となることが予測されています。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
 一般社団法人 日本投資顧問業協会